

# HEPATOLOGY NEWS

## 肝胆膵病態内科学ニュース

第9号 2012年6月 発行

### 巻頭言

**み** さん、こんにちは。お元気でお過ごしのことと存じます。この原稿を書いている前日にはワールドカップ最終予選で日本がオマーンに快勝して日本中が沸きかえっていました。いよいよ今年はロンドンオリンピックがあり各種競技で選考会が行われています。まさにスポーツ真っ盛りの今日この頃です。

肝胆膵内科医局も平成24年度の業務をスタートさせました。国立がん研究センターに内地留学していた小林佐和子先生が復帰し、病棟や外来で相変わらず患者さんからの厚い信頼を受けながら仕事を再開してくれました。小林先生には見聞してきた最新のがん治療の情報を伝えつつ、それを診療に有効利用して欲しいと期待しています。病棟には大学院を修了した山口康徳先生と元山宏行先生が前期研究医として勤務を開始しました。ローテーションしてくる研修医たちの指導を行いつつ、石河修新病院長の下、病院全体として目標に掲げている満床率85%以上に貢献するべく多数の患者さんの主治医として活躍してくれています。また、京都大学より村上善基先生が当科に来てくれました。村上先生はマイクロRNAというRNAの一種を用いて肝臓病の診断に応用したり、将来的に核酸創薬を行おうと意欲的に研究しています。すでのがんの組織やNASH血清を集めて解析を開始したようで成果が期待されます。大学内のその他の人事異動としては、森川浩安先生と岩井秀司先生が社会医療センターの勤務交代を行いました。それぞれ新たな環境で持ち前の技量を発揮してくれると思っています。榎本大医局長の采配で関連病院も新たな人事で新年度を迎えました。

医学研究科は荒川哲男先生が新研究科長に就任され、すでに新たな取り組みがスタートをきっています。的を絞って私が関係する部分のみを記載しますと、まずは広報を充実させるために「広報戦略委員会」が新たに立ち上がり委

員長にご推薦頂きました。この委員会は市大医学部の活動を世に広く、正確に、しかもスピード感をもって伝えることを使命としており、主にホームページやメディアを利用して情報を発信します。医者や研究者はともすると控えめな気質がありますが、世間では何を行っているのかを公表して外部から評価を受けることが求められています。仕事をやる以上反響を受けるような仕事をすべきともとれます。また、ネットで情報を瞬時に検索できる現在では、海外へ向かって市大の活動を知らせる必要があり、これは新たな優秀な人材や留学生確保に直結します。国際交流委員会も発足し、グローバル化に立ち後れている市大をステージに戻すべく努力する必要があります。一方、新臨床研修医制度が始まって以降、医学部に在籍する研究者が激減しているという現状があります。研究者人口が減少すると、当然のことながら研究の質の確保が難しくなります。そのため、いま正に大学院制度を見直すべき時にきています。例えば、他学部出身者や社会人が医学部で学位を取れやすくすることや、優れた研究成果に対しては学部や大学が大いにサポートするなどの支援体制、また、外国人教員の採用等も議論になってくると思われます。ほんの一端を書きましたが、市大全体、医学部全体で取り組むべき課題は山積しており、私もその解決に貢献したいと思っています。

さて、来年度になりますが、研究分野の方の国際学会を開催することになりました(7ページ参照)。この会は私の肝煎りの研究分野であり、世界中に友人を作るきっかけとなった会です。肝臓という臓器を肝臓内の血管という観点から理解する研究分野であり、国の内外から多数の著名な教授が輩出されています。来年度も多数、海外からのシンポジストを招くべく鋭意準備を進めますので、ご協力をお願いいたします。(河田則文)



### Contents

巻頭言	1
着任挨拶	2
スタッフ紹介	2
留学報告	4
受賞報告	5
第17回肝類洞壁細胞	
国際シンポジウムのご案内	7
肝胆膵内科 外来表	8
編集後記	8

## // 着任挨拶

病院講師  
村上善基

(むらかみ よしき)



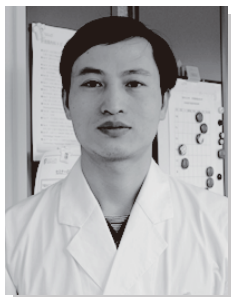
の 4 月より大阪市立  
大に赴任してきました。  
京都府立医大、パリ大学、  
パスツール研究所では HBV  
感染と肝発癌の関係を、京都  
大学ウイルス研究所、京都大学ゲノム医学センターでは  
HCV 感染とマイクロ RNA 発現の関係をテーマに研究  
を中心に仕事をしてきました。今後は大学での臨床業務

と平行して、non-coding RNA を使った核酸医療や新しい  
バイオマーカーを企業、工学部などと産学連携で開発  
する事を目標としています。

## // スタッフ紹介

研究員  
HOANG HAI

(ホアン ハイ)



**N** ame : HOANG HAI  
Year of birth : 1975  
Degree : PhD in Engineering  
Education : Osaka University

Graduate School of Engineering,  
2005-2009

Occupation : Postdoc Researcher  
at Osaka City University Graduate  
School of Medicine, Department of  
Hepatology, since June 2011

Research theme : Molecular biology  
in the treatment of  
viral hepatitis

Hobby : sports (soccer, badminton)

Nearly 10 years living in Japan is not long but not  
short, I recognized that I love Japan, love Osaka  
so much.

研究員  
齋藤 夏美

(さいとう なつみ)



**は**じめまして。齋藤夏美と申  
します。4 月からお世話に  
なっております。今年 3 月に神戸  
大学から博士(理学)をいただき、

初めて、仕事として研究をすることになりました。これまで  
の研究内容は、肝胆膵内科の研究室でされている内容  
とかけ離れていまして、カエルの視細胞を研究対象とし、  
生化学、生物物理学の手法を中心にしてきました。今現在、  
週一のセミナーで先生方の話を聞いて面白さをつかみな  
がら、肝臓の研究、組織学、DNA、RNA の勉強を少しずつ  
しているところです。この文を書いている今日は、なんと  
人生初、組織を固定するというのをしました。私にとっ  
て、研究対象や手法がまったく違う研究室に飛び込むの  
は勇気のいることでしたが、新しいことを吸収し、面白  
がっていただけらと思います。そして、せっかく違う分野か  
ら来させてもらったのだから、異分野であることを生か  
して、研究室に貢献できるようになれば一番だなあと  
思います。何卒、宜しくお願い申し上げます。

研究補佐員  
原田 八千代  
(はらだ やちよ)



**2** 012年4月より肝胆膵病態内科学教室に研究補佐員として勤務しております。

こちらでは機能細胞形態学講座の先生方のもとで実験のお手伝いをさせていただきます。初めて経験する事も多く、毎日刺激を受けながら働かせて頂いております。

以前働いていた研究室では、トランスジェニックマウスを用いたB型肝炎発症メカニズムの研究や、肝細胞癌の予後改善・根治後の再発抑制に関する研究に携わっておりました。

こちらの研究室でも多くの技術と知識を見つけ、習得した技術の精度を高められる様努力致します。宜しくお願い致します。

研究補佐員  
島田 美穂  
(しまだ みほ)



**2** 011年10月より肝胆膵病態内科学に研究補佐員として勤務しております。

島田美穂です。こちらの研究室

では主にナノフローでの3次元細胞培養装置を使った実験をしています。確立された培養法とは違い、装置から新たに開発することは困難続きでしたが、研究室の皆様にご意見をいただき、試行錯誤で毎日実験をしています。将来的には、この装置を使って線維芽細胞とケラチノサイトを培養し、新たな実験用皮膚モデルとして確立することが目標です。以前、働いていた研究室では、ウイルス性心筋炎モデルマウスとトランスジェニックマウスを使った試薬やサプリメントの投与実験、組織評価のための免疫染色実験、サイトカイン等の定量 PCR を行っていました。こちらの研究室でもいろいろな実験を経験して、さらに多くの技術を身につけたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

研究補佐員  
平野 智子  
(ひらの ともこ)



**今** 春より肝胆膵内科研究補佐員となりました。

病院でのお仕事は初めてであり、診断や検査に使われる医学用語はとても難しく感じま

すが、少しでも知識を広げ、今後の担当業務に生かしていけるよう努力したいと思います。先生方の研究に少しでもお役に立てるよう精一杯取り組んでまいりますので、ご指導よろしくお願ひいたします。

臨床検査技師  
出口 早苗  
(でぐち さなえ)



**大** 変ご無沙汰していましたが、4月より肝炎防止調査センターに、復職させていただき事になりました。

病院職員の針刺し事故や肝炎健診の対応、HBV再活性化や母子感染の調査、インターフェロンのカレンダー作成等の業務をお手伝いさせていただいております。

復帰早々、出勤途中で虫に刺され、少々ブルーな気持ちにもなりましたが、先生方の暖かいご指導をいただきながら、日々精進してまいります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

## // 留学報告

小林佐和子

**2** 011年5月から2012年3月まで、国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科に国内留学をさせていただきました。

国立がん研究センター中央病院は築地市場の真正面にあり、銀座まで徒歩15分ほどで行ける距離にあります。肝胆膵内科には奥坂拓志先生をはじめスタッフの先生が4名、チーフレジデント(がん専門修練医)2名、その他数か月ずつローテーションしてくるレジデントや短期レジデントなどが数名いて、診療にあたっておられました。私は任意研修医として11か月間お世話になり、主に入院患者さんを担当させていただきました。スタッフの先生方以外は3~10年目と若い先生ばかりで、そんな中、十数年ぶりの研修医として本当に楽しく過ごさせてもらいました。肝胆膵内科の対象となる疾患は、肝臓(肝細胞癌、肝内胆管癌)、胆道癌、膵癌、膵内分泌腫瘍などですが、肝臓の患者さんが半分以上を占める当院とは違い、入院患者さんの半数以上は胆膵癌の患者さんでした。治療としては化学療法が中心でしたが、化学療法中の対応・管理、考え方など、目からうろこ、なことがいっぱいでした。また、胆膵癌は本当に様々な合併症が起こります。それらの合併症

に対する治療も様々な科と連携して積極的に行われており、こんなことまでできるんだ(やるんだ)、と驚くことも多く、とても勉強になりました。それぞれの癌に対する分子標的薬など新しい治療の治験も多く、自分一人の頭では全く追いつかないという状況でしたが、薬剤師さんやレジデントの先生と一緒に勉強会をしたのもいい思い出です。

今回、全く知らない環境に留学という形で行かせてもらい、自分自身とてもよい勉強をさせてもらえたと思います。自分自身ができること、できないことが本当によくわかりました。また、外に出て改めてわかる当科の良さもありました。いろんな方との素晴らしい出会いもありました。若い先生には機会があれば是非経験してもらいたいな、と思います。

最後に、このような機会を与えていただいた、河田教授はじめ教室の先生方には本当に感謝しております。ありがとうございました。



## // 受賞報告

### 日本消化器病学会近畿支部会第 95 回例会奨励賞を受賞して 大阪市立総合医療センター 肝臓内科 上野綾子

**平** 素よりお世話になりありがとうございます。大阪市立総合医療センターレジデント 2 年目の上野綾子です。今回、日本消化器病学会近畿支部会第 95 回例会奨励賞をいただくことができました。発表タイトルは「シスプラチン肝動注が著効した再発多発肝細胞癌の 1 例」です。研修医時代に学会や地方会での発表の機会がなかった私にとって、これが初の発表でした。抄録の作成から発表のしかたまで指導していただき、木岡先生はじめ多くの先生方のおかげでこの賞をいただくことができました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。この賞をいただいたことで 2012 年 4

月 19 日～ 21 日の消化器病学会総会に招待していただきました。さまざまな講演を回り、消化管エコーと経鼻内視鏡の実技セミナーにも参加し、大変勉強になりました。まだまだ若輩者の私ですが、少しずつでも臨床医として成長していけたらと思います。今後ともよろしく願います。



### 大阪市医学会賞

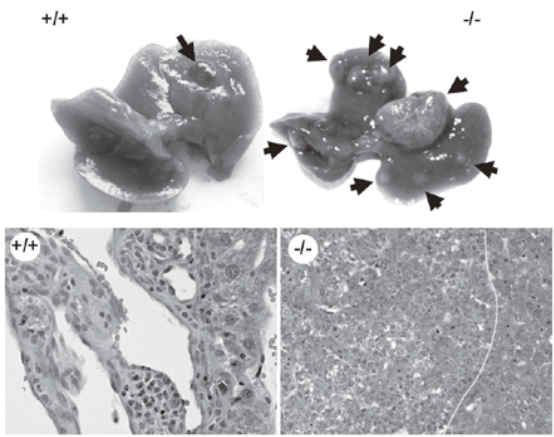
#### Le Thi Thanh Thuy

I am Le Thi Thanh Thuy, a postdoctoral researcher at this Department of Hepatology since 2009. My interesting is the function and activity of Cytoglobin, the fourth member of the globin family, with regard to the liver diseases. Last year, I had one paper published on American Journal of Pathology: Vol .179; page 1050-1060 with the title “Promotion of liver and lung tumorigenesis in DEN-treated Cytoglobin-deficient mice” . Thank

to this, I got an Award from Osaka City Medical Association last December.

Now I am studying on the mechanism of Cygb in inhibiting the liver steatosis, fibrosis and cancer. I will try my best.

I would like to say thank you very much for all the help from Professor Kawada, and all members in this Department. It is lucky for me to work here!!!



## 肝胆膵内科 トピックス 【2011年4月～2012年4月】

- Apr 11：文科省新学術領域(新規)、学振基盤 B、C(継続)、若手 B(継続)、挑戦的萌芽(継続)が採択されました
- Apr 19：Le 研究員が日本肝臓学会 Travel Award を受賞しました
- May 2：榎本准教授が「日本肝臓学会研究奨励賞」を受賞する事になりました
- May 2：Le 研究員の Cytoglobin に関する論文が Am J Pathol に accept されました
- May 6：大学院生山口康德先生の愛隣地区における HCV 感染に関する論文が Hepatology Res に accept されました
- May 17：学振基盤 C(新規)、若手 B(新規)が採択されました
- May 18：森元研究員の NASH 組織と弾性度に関する論文が Hepatology Res に accept されました
- Jul 8：田守昭博氏の Trastuzumab により HCV 感染が消失したという症例報告が Am J Gastroenterol に Accept されました
- Jul 8：関谷由美子氏の miR-29b と初代星細胞に関する論文が BBRC に Accept されました
- Jul 22：学内競争的資金の新産業創世研究 2 件、重点研究 1 件が採択されました
- Jul 28：森川講師の非侵襲的肝検査に関する Review が Clinical J Gastroenterology に in press となりました
- Aug 1：大学院・小塚立蔵先生をはじめ 6 演題が米国肝臓学会(AASLD)に採択されました
- Aug 8：兵医外科山先生との新しい間質マーカーに関する共同執筆論文が Laboratory Investigation に accept されました
- Aug 10：田守先生がまとめた PegIFN 治療に関する関連施設との共同研究成果が Hepatology Res に accept されました
- Sep 10：萩原先生が関西では数少ない「がん薬物療法専門医」として読売新聞で紹介されました
- Sep 30：総合医療センター上野綾子先生が日本消化器病学会近畿支部会第 95 回例会奨励賞を受賞しました
- Sep 30：Le Thuy 先生が 16th ISCHS で Marco Foschi Prize for Research in GI Oncology を受賞しました
- Nov 6：米国肝臓学会(AASLD)のポスターセッションにおいて川村悦史先生の発表が優秀演題に選ばれました
- Dec 2：山口康德先生の C 型慢性肝炎セロ 2 に対する治療戦略に関する論文が Hepatology Res に accept されました
- Dec 12：Le Thuy 先生が大阪市医学会賞を受賞
- Dec 15：小川智弘氏の肝線維化と microRNA に関する論文が GUT に Accept されました
- Jan 5：藤井／河田による steatohepatitis に関する review が最速投稿 1 日で J Gastroenterol に Accept されました
- Jan 17：Le／河田による MIF/Liver fibrosis に関する Commentary が Hepatology に Accept されました
- Jan 27：大阪大との NASH と糖鎖に関する共同研究論文が Glycobiology に Accept されました
- Feb 6：川村悦史氏の IFN 中の胃運動能に対するガスモチンの効果に関する論文が Dig Dis Sci に Accept されました
- Feb 17：河田教授が第 2 回バイオビジネスアワード JAPAN にてバイオ先端知賞を受賞しました
- Feb 26：岩井秀司先生の胸腹水 RFA に関する論文が Hepatogastroenterology に publish されました
- Mar 2：崔文浩氏が平成 23 年度京都府立医科大学青蓮賞(最優秀論文賞)を受賞しました
- Mar 3：小川智弘氏(現在、近畿大学)が関西 Liver Club で最優秀演題賞に選ばれました
- Mar 9：小塚立蔵先生の核酸アナログの中止に関する Letter が Hepatology Res に accept されました
- Mar 29：松浦知香先生「ミリプラチン動注療法後に発症した薬剤性肺障害の 1 例」が雑誌肝臓に Accept されました
- Apr 8：市民公開講座「みんなで学ぶ肝臓病」をおこないました。参加者 320 名
- Apr 9：藤井先生の論文の図が J Gastroenterol 3 月号の表紙のをカバーしました
- Apr 27：小塚立蔵先生の C 型肝炎ウィルスの遺伝子変異の変化に関する論文が Hepatology Res に Accept されました

◆◆ 第17回 肝類洞壁細胞国際シンポジウムの日程が決定しました!! ◆◆



International Society for Hepatic Sinusoidal Research

# ISHSR

Biennial Conference

**17th**  
**International Symposium  
on Cells of the Hepatic Sinusoid**

**9.23-27, 2013  
in Osaka JAPAN**

**Venue**  
**Osaka International  
Convention Center**

**Information:**  
Department of Hepatology  
Osaka City University, Osaka, Japan  
[ischs\\_2013@med.osaka-cu.ac.jp](mailto:ischs_2013@med.osaka-cu.ac.jp)  
<http://ishsr.org/>

## 大阪市立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表

	月	火	水	木	金
1 診	河田 則文	田守 昭博	森川 浩安	河田 則文	田守 昭博
2 診	榎本 大	森川 浩安	岩井 秀司	榎本 大	藤井 英樹
3 診	藤井 英樹	小林 佐和子	小林 佐和子	萩原 淳司	萩原 淳司
4 診	遠山 まどか	川村悦史	川村悦史		村上 善基

## 肝胆膵病態内科学ホームページの主な更新内容 (2011年4月~2012年5月)



- ・関連病院のページをリニューアルし、当教室に関連のある先生方のお名前も掲載しました。
- ・主催学会・研究会のページを更新しました。
- ・学会発表一覧のページを作成しました。
- ・論文一覧のページを更新しました。
- ・学会案内のページ(関連学会の日程一覧)を更新しました。
- ・これまで医局運営に貢献頂いた OB&OG のページを作成しました。

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/syoukaki/hepatology/index.html>

## 編集後記

Hepatology News 第9号をお届けします。  
満開の桜の下での集合写真は3年ぶりです。  
今年も多くの成果を残せるよう教室員一同がんばってまいります。  
(ME)

## HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第9号 2012年6月 発行



発行者 / 大阪市立大学大学院医学研究科  
肝胆膵病態内科学

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL : 06-6645-3811 FAX : 06-6645-3813

編集委員 / 榎本 大